

温根沼町会地区

津波避難計画

平成27年4月

温根沼町会

温根沼町会自主防災組織

はじめに

根室市において、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の地震が発生する確率は約 60%（地震調査研究推進本部、平成 27 年 1 月現在）とされ、北海道内で最も高い確率で発生することが懸念されており、激しいゆれによる被害のほか、直後に襲ってくる津波により大きな被害が発生することが予想されています。

また、平成 24 年 6 月に北海道が発表した最大クラスの津波浸水予測では、温根沼においても 3.1m の津波（遡上高で 4.3m）が想定されているところであり、これまでも津波の被害を繰り返し受けてきたことも踏まえ、少しでも被害を軽減するために市民と事業者、学識経験者、市などが一体となって津波災害への対策を進める必要があります。

平成 25 年 8 月には、地域の防災対策の基本となる「根室市地域防災計画」の全面的な修正が加えられたほか、新たに「根室市津波避難計画」が策定され、津波浸水が予想される区域内の自主防災組織等は津波からの円滑な避難を行うために、「地域津波避難計画」を作成し、避難訓練等を実施することとしています。

このようなことから、津波被害から命を守るため、地区住民一人ひとりが「津波から逃げる」意識を高め、お互いに助け合い、津波が到達するまでに安全な高台へ迅速に避難することを目的に「地域津波避難計画」を作成します。

この計画の使い方

この計画では、最大クラスの津波浸水予測を基とし、各地区の避難目標地点や避難先、避難経路を示すことで、どこに住む人々が避難を行うことが望ましいのかを記載しています。また、避難時の留意点や心得、いざという時に備えた非常持出品のリストや災害伝言ダイヤルの利用方法なども掲載していますので、事前に読み、いざという時の対応方法を家族と話しあいましょう。

また、この計画は地域の津波避難訓練等の実績を踏まえ、修正していくものとしています。

1 避難対象地域

津波から避難が必要な地域は次のとおりです。

地区名	対象地区の範囲	対象世帯数 ※	対象人口 ※
温根沼町会	全域	48世帯	125人

※ 対象世帯数、対象人口は平成27年3月現在（対象は、津波浸水域外の世帯も含む）

2 津波到達予想時間

津波到達予想時間は、平成24年6月に北海道が発表した太平洋沿岸で発生した地震による津波浸水予測を参考に次のとおりとします。

地区名	津波到達予想時間	最大遡上高
温根沼	65分	4.3m

3 津波避難目標地点（緊急避難場所）

津波から避難する際には、次の地点を目標に迅速に避難します。

町会名	避難目標地点（避難経路）
温根沼町会	温根沼会館【14.5m】

4 避難経路

避難経路は「8避難所までの地図」に記載のとおりです。ただし、地震による道路閉塞の発生状況によっては、より早く避難所や目標地点に到達できる経路を選択してください。

5 避難先（避難所）

町会名	避難目標地点（避難経路）
温根沼町会	根室市立海星小中学校【36.5m】

津波災害については、沿岸部から「より遠く」「より高く」を基本に、迅速に津波浸水域外への避難をおこなうことが重要です。

また、他の地域にいた場合には、最寄の避難所への避難をおこなうものとします。

6 地震から身を守るための留意点

- (1) 地震発生直後は、揺れによる被害から身を守りましょう。
 - 屋内では、テーブルや机の下に身を隠し、あわてて外に飛び出さない。
 - 屋外では、ブロック塀や自動販売機、看板や窓ガラス、など倒壊の危険性のあるものから離れて、落下物から頭を守りましょう。
- (2) ゆれが収まったら出口を確保し、火の元を消しましょう。
 - 余裕があれば、ガスの元栓を締め、ブレーカを切ること。
 - 出火に備えて、消火器を常備しておくこと。
 - 家具が倒れて出口を塞がないよう、日頃から家具の配置などに気をつけること。

7 津波避難の心得

- (1) 強いゆれや長時間のゆっくりとした地震を感じたら、津波警報等を待たずにすぐに避難を開始します。
- (2) 地震を感じなくとも、津波注意報や警報等が発表されたときは、直ちに、海岸から離れて、速やかに避難します。
 - 津波は引き波で始まるとは限りません。体で感じるゆれや注意報や警報の発表などによって避難するかどうかを判断してください。
- (3) 原則として、自分の命は自分で守ることを心がけますが、可能なかぎり、隣近所に声を掛け合い、避難行動に支障のある方を助け合って避難します。
- (4) 津波の進入方向に避難してはいけません。
- (5) 川や水路に近づいてはいけません。津波は川や水路もさかのぼってきます。
- (6) 津波注意報や警報の解除が発表されるなど、安全が確認されるまでは、避難を継続して、独自の判断で戻ってはいけません。津波は繰り返し襲ってきます。また、第1波が最大であるとは限りません。
- (7) 津波避難予測による浸水域以外にも津波が来る可能性もあります。
常に状況把握に努め、より安全な場所に移動することを考えてください。
 - 場所によっては、津波が極端に高くなることがあります。また想定を越える地震の場合、浸水範囲が予想よりも広がる可能性があります。

8 避難所までの地図

別紙地図のとおり

9 日頃からできること

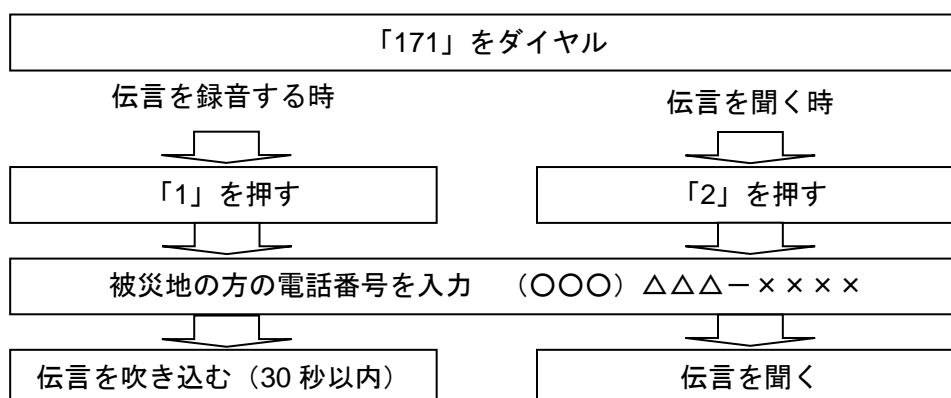
- (1) 避難所や避難経路を日頃から確認しておきましょう。
- (2) 高齢や障害などによって避難時に支援を要する者(避難行動要支援者)について、日頃から家族や支援者、市、自主防災組織、地区の民生委員や社会福祉協議会などと連携して、日頃からその状況を把握し、近隣の者が協力して避難支援ができる体制を整えておきましょう。
- (3) 避難訓練は年 1 回以上実施することとし、夜間や平日・休日、夏・冬に地震が起こった場合を想定して、避難訓練を実施しましょう。
- (4) 非常用持出品を用意しておきましょう。

【非常用持出品の例】

メガネ、補聴器、入れ歯、常備薬、懐中電灯、ライター、携帯ラジオ、乾電池、ヘルメット・防災頭巾、運動靴、現金、貴重品、下着・上着 など

- (5) 家族が離ればなれになった時の連絡方法を事前に話し合い、決めておきましょう。

【NTT 災害用伝言ダイヤル】



各社携帯電話からも『災害用伝言板』のサービスを利用することができます。詳細は、携帯電話のサービストップ画面に表示される『災害用伝言板』を選択してください。

1.0 わが家の防災メモ

避難場所	
家族の集合場所	

家族の名前	血液型	電話（携帯含む）	会社・学校	連絡先	使用医薬品名

親戚・知人の名前	電話番号（携帯含む）	メモ

緊急連絡先	電話番号	緊急連絡先	電話番号
消防署	119		
消防・災害 相談ダイヤル	24-0119		
警察署	110		
市役所	23-6111		

温根沼町会地区津波避難計画（避難所までの地図）



※根室津波ハザードマップより抜粋